

# 仏事を学ぶ第一回

## 法事の回向



法事（年回法要）の際、お経をあげた後に漢文調の文章を読み上げてお経を皆さんはご存知ですか？この文章は回向といい、その法要の趣旨（ごなたの何を祈り願うのか等）を仏さまに対してご報告するものです。今回はその意味するところについて皆さまにお伝えいたします。

### ① 本尊上供

ご本尊さま（当寺においては釈迦さま）そして、大本山永平寺をお開きになつた道元禪師さま、總持寺をお開きになつた瑩山禪師さまに対して行う法要です。

### 【回向（原文）】

上来、摩訶般若波羅蜜多心経を誦誦する功德は、大恩教主本師釈迦牟尼仏、高祖承陽大師、太祖常済大師に供養し奉り、無上仏果菩提を莊嚴す、伏して願わくは、四恩総て報じ、三有齊しく資け、法界の有情と、同じく種智を円かにせんことを。冀う所は、家門繁栄、息災安穩、災障消除、諸縁吉祥ならんことを。

であります。さて、本日は「戒名」の命日、回忌供養の日であります。つつしんで、香花、灯燭、蜜湯、菓子、お茶にめずらしいご馳走をそなえ、仏の説きたもう、お経をよみました。その功德を回らして、既に仏のさとり位に入られたみたまが、安らぎをえられますよう助けまいらせ、依りてもって報いられています世界が、いよいよ清らかでありますよう、手向きたいと存じます。特に、生といい、死といい（ないし、迷いと悟りがいりまじり）、水の流れのように、うつりかわる、この世にありながら、あたかも、またと得がたい名珠が、青々とした大海原に輝きを増すように（今は、この世に亡き、あなたは、りっぱな、あとかたを残され）生死の迷いの中にいながら、生死を超えておられます。そして（苦しみの河をこえ）涅槃の岸にいまして、あたかも、美しい満月が、雲ひとつない天空に明らかに輝くように（みたまも、安らげく輝くことでもあります。のこすことなく、もらすことなく）あまねく、すべての人々を導いて、同じように、仏法のめざめの路を登るよう、切に願うものであります。

### 【現代語訳】

（仏事供養を行うに当たって、まず、なにはともあれ、われらが安心の帰依処である一仏兩祖に供養いたします）さて、みんな般若心経を誦誦いたしました。が、読経によってえられる功德を、仏法の門を開き、正法を教えてくださいました大恩ある本師釈迦牟尼仏と、道元禪師と瑩山禪師の一仏兩祖に、謹んで供養いたし、この上ない仏の位に達してえられる「さとりの徳を、いよいよ清らかなものにしてほしいと存じます。特に、誓い、そして願うことは、この世におけるすべてのご恩はもとより、仏法僧（伽）の三宝の恩に報い、あらゆる世界の生きとし生けるすべての人々が安らかでありますように助けまいらせ、すべての人々と、ともに同じく仏の智慧を、まどかにそなえたものであります。そして、心から願うことは、この家がいよいよ栄え、皆が心おだやか・健やかに、いろいろな災難や障害が消えてなくなり、なにごとめめでたくありますように。

### ② 檀越年回忌調経

ご先祖さま、心に思われる（所念の）亡き方々をご供養する法要です。

## 行事予告

### 第六回大畑まちゼミ開催

来たる十一月十一日より十二月七日にかけての約一カ月、むつ市大畑地区で開催されます。「まちゼミ」は町の商店主や事業主が講師となり、それぞれのノウハウや知識を提供する無料の講座。講師・受講者・地域が元気になるこの事業を、むつ市大畑地区の有志で運営する「大畑まちゼミの会」が独自で開催することになりました。当寺でも「心安らぐイス坐禅体験」、「禅語・端坐とお茶席体験」（大安寺茶友会とのコラボ開催）にて参加します。詳しくは、十月下旬に配布されるチラシでご確認ください。



### 【回向（原文）】

浄極まり光通脱し、寂照にして虚空を含む、却来して世間を觀ずれば、猶お夢中の事の如し、仰ぎ冀くは三宝、俯して照鑑を垂れたまえ。家門今月今日伏して、（戒名）何忌の辰に値う。虔しんで香華灯燭湯菓茶珍膳を備え、経呪を誦誦す、集むる所の功德は、覺靈を資助し、報地を莊嚴す。伏して願わくは、生死の流れに処して、驪珠独り滄海に輝き、涅槃の岸に踞して、桂輪孤り碧天に朗らかに、普く世間を導いて、同じく覺路に登らんことを。

### 【現代語訳】

この上なく清浄なる法身、すなわち仏の光は遍くゆきわたり、すべて仏ならざるものはなく、おおいなるやすらぎのままに、明らかにあらゆるものを照らし、この世の一切を包摂してはいますが、かえり来って、ひとたび世の中をみてみると、そこにはあたかも、夢の中で現れるものに、その実がないごとく、とらわれるべき何ものも実性としてないまま、平等一如でありながら、個々、千差万別の相を呈しているのがあります。恭しく、合掌礼拝して仏法僧（伽）の威徳を仰ぎ、あきらかに、みそなわすよう請い願うもの

## 行事報告

### 令和元年度迎え火・送り火萬灯会

八月十三日（迎え火）・十六日（送り火）の両日、ご先祖さまをはじめとする亡き方々をお迎えし、そしてお見送りする萬灯会を開催いたしました。迎え火萬灯会の日はお天気に恵まれたため、山門・石段付近にて、送り火萬灯会の日は荒天のため、本堂内に会場を移し、ご遺族の皆さんの思い思いのメッセージ、お戒名、心づくしのイラストなどが描かれたカップローソクを約六十個を灯しました。

